インストール前の作業

- Cisco Unified Communications Manager のインストール前タスク （1 ページ）
- IM and Presence Service のインストール前の作業 （6 ページ）
- Cisco AXL Web サービスの有効化 （9 ページ）
- DNS 登録の確認 （9 ページ）

Cisco Unified Communications Manager のインストール前タスク

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	設置の計画	計画の章を参照してください。次のことを確認する確認します。 • インストール方法を決定します。 • クラスタ トポロジを決定します。 • IM and Presence の場合、標準的な導入と、IM and Presence Service 中央クラスタを含めるインストールのどちらにするかを決定します。 • 要件および制約事項を確認します。
ステップ 2	必要なインストール情報	インストールを予定している各サーバーのインストール要件を確認し、設定内容を記録します。
ステップ 3	仮想マシンを作成します。	• 基本 OVA を入手します。

	コマンドまたはアクション	目的
		（注）

	コマンドまたはアクション	目的
		リリース 15 以降、OVA テンプレートは、シスコ認証証明書を使用して sha512 で署名され、OVA ファイルの改ざんがないことを確認します。OVA を使用して新しい仮想マシンを作成するときに「証明書が信頼されていません」という警告が表示されないようにするには、次の手順を実行します。 **1.** https://www.cisco.com/security/pki/codesign/ にアクセスします。 **2.** OVA ファイルの署名に使用される選択した証明書の **[発行者チェーン PKCS7（Issuer Chain PKCS7）（PEM）]** ファイルをダウンロードします（右クリックして **[名前を付けてリンクを保存（Save link as）]** を選択します）。使用される署名証明書は、ダウンロードした OVA ページの **[ファイル情報（File Information）]** に記載されています。 **3.** https://kb.vmware.com/s/article/84240 にある「解決策」セクションの手順に

	コマンドまたはアクション	目的
		従って、これらの証明書を vCenter に追加します。 • Collab Sizing Tool を実行して、必要な仮想マシンの数と各仮想マシンの仕様を取得します。Collab Sizing Tool を実行したくない場合は、OVA readme と OVA ウィザードのガイダンスに従って、事前定義の開始点を選択します。これは、必要に応じて後で変更できます。 • Business Edition アプライアンスの工場出荷時にプリロードされたスキップインストール OVA からインストールする場合は、『Cisco Business Edition 6000 および 7000 の設置ガイド』を参照してください。
ステップ 4	インストール ISO ファイルをマウントします。	仮想マシンがアクセスできる場所にインストール ISO ファイルを配置し、仮想マシンの DVD ドライブをファイルにマッピングします。仮想マシンの電源投入時に DVD ドライブをマウントするオプションを選択します。 仮想マシンをオンにすると、ISO がマウントされ、インストールプロセスが開始されます。この手順をすべて完了するまで、インストールプロセスを開始しないでください。
ステップ 5	サーバ間のリンクが 80 ミリ秒のラウンドトリップ（RTT）要件を満たしており、データベース複製に対応する十分な帯域幅があることを確認します。	80 ミリ秒の RTT 要件の詳細については、『Cisco Unified Communications Solutions Reference Network Design』 を参照してください。
ステップ 6	パブリッシャ ノードで NTP ステータスを確認します。	パブリッシャ ノードが NTP サーバとの同期に失敗すると、サブスクライバ ノードのインストールが失敗する可能性があります。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで、`utils`

	コマンドまたはアクション	目的
		`ntp status` という CLI コマンドを実行します。
ステップ 7	次のファイアウォールの更新を実行します。 • ファイアウォールがノード間のルーティングパスにある場合は、ファイアウォールを無効にします。 • インストールが完了するまでは、ファイアウォールのタイムアウト設定を大きな値にしておきます。	ノードで発着信されるネットワークトラフィックを一時的に許可する（たとえば、これらのノードのファイアウォール ルールを IP any/any に設定する）だけでは、必ずしも十分ではありません。ファイアウォールが、タイムアウトのために、ノード間で必要なネットワークセッションを閉じる可能性があります。
ステップ 8	Unified Communications Manager をインストールしているサーバー間でネットワークアドレス変換（NAT）およびポートアドレス変換（PAT）を実行しないでください。	
ステップ 9	NIC の速度とデュプレックス設定を確認します。	ネットワークインターフェイスカード（NIC）の速度とスイッチ ポートの二重化設定が新しいサーバに設定する予定のものと同じであることを確認します。 GigE（1000/FULL）の場合、NIC およびスイッチ ポートの設定を `Auto/Auto` に設定する必要があります。固定値を設定しないでください。
ステップ 10	シスコ サーバに接続されているスイッチ ポートでは、すべて PortFast を有効にしてください。	PortFast を有効にすることで転送遅延[スパニングツリープロトコル（STP）の学習状態およびリッスン状態から転送状態に変化するまで、ポートが待機する時間]がなくなり、スイッチによりポートはブロック状態から転送状態にすばやく切り替えられます。
ステップ 11	DNS を使用する場合、Unified Communications Manager のインストールを予定しているすべてのサーバが、DNS で適切に登録されていることを確認します。	詳細については、「DNS 登録の確認（9 ページ）」を参照してください。
ステップ 12	ライセンス要件	十分なライセンスがあることを確認します。

IM and Presence Service のインストール前の作業

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	設置の計画	計画の章を参照してください。次のことを確認する確認します。 • インストール方法とクラスタ トポロジを決定します。 • IM and Presence の場合、標準的な導入と、IM and Presence Service 中央クラスタを含めるインストールのどちらにするかを決定します。 • 要件および制約事項を確認します。
ステップ 2	サポートされるバージョン	Unified Communications Manager と IM and Presence ソフトウェアのバージョンに互換性があることを確認します。
ステップ 3	必要なインストール情報	IM and Presence Service のインストールと設定に必要なすべての情報を収集します。
ステップ 4	仮想マシンを作成します。	クラスタ内のすべてのノードについて、現在のリリースに推奨される仮想サーバテンプレート（OVA ファイル）を使用して仮想マシンを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
		（注） リリース 15 以降、OVA テンプレートは、シスコ認証証明書を使用して sha512 で署名され、OVA ファイルの改ざんがないことを確認します。OVA を使用して新しい仮想マシンを作成するときに「証明書が信頼されていません」という警告が表示されないようにするには、次の手順を実行します。 **1.** https://www.cisco.com/security/pki/codesign/ にアクセスします。 **2.** OVA ファイルの署名に使用される選択した証明書の **[発行者チェーン PKCS7（Issuer Chain PKCS7）（PEM）]** ファイルをダウンロードします（右クリックして **[名前を付けてリンクを保存（Save link as）]** を選択します）。使用される署名証明書は、ダウンロードした OVA ページの **[ファイル情報（File Information）]** に記載されています。 **3.** https://kb.vmware.com/s/article/84240 にある「解決策」セクションの手順に従って、これらの証明書を vCenter に追加します。 異なる OVA ファイルを使用できます。Unified Communications Manager を導入している環境に基づいて適切な OVA ファイルを選択します。詳細については、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/

	コマンドまたはアクション	目的
		docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-unified-communications-manager.html を参照してください。
ステップ 5	ネットワークの接続性を確認します。	それぞれの IM and Presence Service サーバーが Unified Communications Manager のパブリッシャ サーバーにネットワーク アクセスできることを確認します。他の IM and Presence Service サーバーから Unified Communications Manager パブリッシャ ノードに ping を実行します。
ステップ 6	Cisco AXL Web サービスの有効化 （9 ページ）	Cisco AXL Web サービスが有効になっていることを確認します。
ステップ 7	DNS 登録の確認 （9 ページ）	DNS を使用する場合は、DNS サーバーで新しい IM and Presence Service サーバーのホスト名を設定したことを確認します。また、DNS サーバーが、Unified Communications Manager パブリッシャ サーバーのホスト名、および他の IM and Presence Service サーバー（存在する場合）のホスト名を解決できることを確認します。 **（注）** IM and Presence Service と Unified Communications Manager で同じ DNS サーバーを使用することを推奨します。異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。混合モードの導入はサポートされていないため、DNS を Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方で使用するか、さもなければどちらでも使用しないようにする必要があります。

Cisco AXL Web サービスの有効化

Cisco AXL Web サービスが実行されていることを確認します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified サービスアビリティ インターフェイスにログインします。

ステップ 2 **[Tools（ツール）]** > **[Service Activation（サービス アクティベーション）]** を選択します。

ステップ 3 **[データベースおよび Admin サービス（Database and Admin Services）]**で、**[Cisco AXL Web サービス（Cisco AXL Web Service）]** ステータスが **[アクティブ（Activated）]** になっていることを確認します。

ステップ 4 ステータスが **[非アクティブ（Deactivated）]** の場合、隣接するチェックボックスをチェックし、**[保存（Save）]** をクリックしてアクティベートします。

DNS 登録の確認

トポロジで DNS を使用する場合は、この手順に実行します。次の手順を実行して、追加するすべてのサーバが DNS で適切に登録されていることを確認する必要があります。

手順

ステップ 1 コマンド プロンプトを開きます。

ステップ 2 各サーバに対してその DNS 名で ping を実行するには、ping DNS_name と入力します。

ステップ 3 各サーバを IP アドレスで検索するには、nslookup IP_address と入力します。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。